京都芸術劇場 ニュースレター

Newsletter
shunjuza
studio21

vol.42
2018.11–2019.3

特集
組踊上演300周年記念事業
琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演 ── 2P–5P
ホワイエ ── 6P–7P
11～2019年3月公演スケジュール ── 8P–11P

一路真輝＆京フィル
シャイニング コンサート in 春秋座 ── T•2P–T•5P

組踊『孝行の巻』

組踊上演300周年記念事業

琉球舞踊と組踊　春秋座特別公演

2019年2月23日（土）14:00

出演：
宮城能鳳（立方／人間国宝）、西江喜春（歌三線／人間国宝）、
比嘉聰（太鼓／人間国宝）、他

司会：嘉数道彦（国立劇場おきなわ芸術監督）

主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター・
公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団

助成：
文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会、
沖縄県（沖縄県文化観光戦略推進事業助成事業）

文化庁

◉公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.10〉をご覧ください。

「組踊」とは、琉球王の代替わりの際に訪れる中国からの使者・冊封使をもてなすために琉球王朝で創作された、音楽・台詞・所作からなる式楽。2019年は組踊の祖・玉城朝薫（たまぐすくちょうくん）により組踊が上演されて300周年を迎えます。その記念の年にあたり、“朝薫五番”とよばれ現在でも上演される朝薫作の組踊のうち『孝行の巻』と、舞踊演目を、豪華出演陣でお届けします。

この先、400年、500年と
勢いよく太い流れを築いていくことが出来るよう、
真摯に向き合いたい。

2014年『執心鐘入』春秋座公演

2016年『銘苅子』春秋座公演

愛おしく、誇らしく、組踊300年

嘉数道彦（国立劇場おきなわ芸術監督）

沖縄には、様々な芸能文化が存在する。それらの芸能は、沖縄の歩んできた道のりから切り離しては、いずれも語ることが出来ないもので、先人たちの熱き思い、精神性に触れることで、今日においても尚さら愛おしく、誇らしく思えるものである。

かつて、琉球国王の代替わりごとに、中国皇帝より冊封使と呼ばれる使節が、琉球へ派遣された。王府は、国賓にあたる冊封使一行を歓待するため、様々な歌舞音曲を披露した。組踊は、その宴席で上演される演劇として、1719年、当時の踊奉行、玉城朝薫によって創り出された芸能である。朝薫は、七回にわたって、薩摩や江戸を訪れ、能楽や人形浄瑠璃文楽、歌舞伎などの芸能に接し、組踊の創作に際しては、このことが大きな影響をもたらしたと言われている。朝薫は「執心鐘入」「二童敵討」「銘苅子」「女物狂」「孝行の巻」を創作し、これらをあわせて朝薫五番として、今日でも名作として上演の機会が多い。当時、中国の重んじていた儒教道徳、忠孝の精神をテーマとすることを基本に築きあげられた組踊は、琉球の宮廷芸能として、冊封使一行に大変喜ばれたそうである。

廃藩置県以降、琉球の宮廷芸能は、上演の場を失うと共に、民衆からの支持を受けることは少なかった。しかし、宮廷芸能の流れを組む演者らの「組踊は琉球芸能の核である」という信念は、後進らにしっかりと受け継がれ、細々といえども絶やすことなく、継承されてきた。沖縄戦では、多くの実演家をはじめ、衣装や小道具、そして文献資料など、琉球芸能に関する多くのものを失った。それでも人々は、パラシュート生地に柄を書いて着物に仕立て、ドラム缶の上にベニヤ板を乗せ舞台を仕込み、演じ続けた。復興の原動力として、計り知れぬ芸能のパワーが、人々を奮い立たせたのだった。本土復帰と同時に、国指定の重要無形文化財となったことから、後継者の育成にも力が注がれ、ユネスコ世界遺産への登録、人間国宝の誕生と、朗報が続き、課題多き中にも、明るい兆しが見えていると述べてよいだろう。

そして来年、組踊上演300年という節目の年に立ち会うことになる。この先、400年、500年と、勢いよく太い流れを築いていくことが出来るよう、真摯に向き合いたい。今日まで様々な困難も乗り越えてきただろうが、今後は、どのような道のりを歩むことになるであろうか。いかなる道を歩もうとも、それが愛おしく誇らしい時間であることを、いつまでも感じていたいものだ

第一部　琉球舞踊

女踊「四つ竹」（よつだけ）

優雅な紅型衣装を着用し、色鮮やかで大きな花笠を被って踊る姿が印象的で、沖縄県内だけでなく、全国的にも最も知られた琉球舞踊です。赤い花、青い海と波をかたどった花笠は、南国沖縄を象徴しています。四つ竹と呼ばれる竹片を二枚ずつ、両手に持ち、曲に合わせ打ち鳴らしながら踊ります。

二才踊「前の浜」（めーぬはま）

空手の技法を取り入れた振りで、きびきびと踊る二才踊の代表的な一曲で、手踊りの魅力を存分に発揮した踊りです。「前の浜」とは、那覇港北岸にあった渡し舟の発着場で、その情景を描いており、舟を漕ぐ場面の写実的な振りも見どころのひとつです。「前の浜節」「坂原口説」「与那原節」の三曲構成で、お目出度い祝儀的な内容で、晴れやかに踊られます。

女踊「天川」（あまかー）

愛しい人との永遠の愛、お互いを思い合う恋心を主題とした女踊です。両思いの二人の仲を、仲睦ましい鴛鴦の姿にたとえつつ、荘重な響きの曲想のもと、愛を確認する女性の喜び、幸せに満ちた心の躍動が描かれています。抑制された所作で表現される、初々しい女性の思いを、女形の第一人者、人間国宝・宮城能鳳氏が踊ります。

「古典音楽独唱」

琉球王国時代、宮廷内で誕生した音楽を古典音楽と称しています。同じく、宮廷内で育まれた組踊や琉球舞踊と結びつきながら洗練され、現在、230 曲余の曲目が継承されているといわれています。本公演では、飴色の声と絶賛される西江喜春氏（組踊歌三線・人間国宝）の独唱で、琉球古典音楽の世界を堪能頂きます。

雑踊「鳩間節」（はとまぶし）

廃藩置県以降に、庶民のニーズを受け、芝居小屋の中から誕生した雑踊の代表作です。八重山諸島の鳩間島を舞台に、男踊として凛々しく踊られる演目です。島の豊穣を喜び、感謝する島人の心が明るく描かれ、日本舞踊の「かっぽれ」を取り入れ、軽快な舞踊に仕立てられています。

第二部　組踊

「孝行の巻」玉城朝薫作

母と弟のため、大蛇の生贄になることを選ぶ娘を物語。親子の情愛、ひたむきな孝行のおこないが引き起こす奇跡が描かれます。見どころ聴きどころ満載の人気演目です。

琉球舞踊と組踊（春秋座公演）

第一部　琉球舞踊

女踊「四つ竹（よつだけ）」

（踊り手）佐辺 良和　金城 真次　玉城 匠

二才踊「前の浜（めーぬはま）」

（踊り手）川満 香多　天願 雄一

女踊「天川（あまかー）」

（踊り手）宮城 能鳳

「古典音楽独唱」

（歌三線）西江 喜春

雑踊「鳩間節（はとまぶし）」

（踊り手）新垣 悟　田口 博章　佐喜眞 一輝

第二部　組踊「孝行の巻」

立方指導：宮城 能鳳　　地謡指導：西江 喜春

【配　役】

頭取：眞境名 正憲
おめなり：佐辺 良和
おめけり：金城 真次
母：宮城 能鳳
時の大屋子：金城 清一
供：新垣 悟　田口博章　玉城匠　佐喜眞 一輝
大蛇操作：川満 香多　天願 雄一

【地　謡】

歌三線：西江 喜春　花城 英樹　玉城 和樹
　　神谷 大輔
箏：　宮里 秀明　　笛：　横目 大哉
胡弓：平良 大　　太鼓：比嘉 聰

【関連企画】

公開レクチャー

2019年1月21日（月）13:00～
会場：春秋座　入場無料・要事前申込
申し込み：京都芸術劇場チケットセンター
Tel:075–791–8240（平日10–17時）

組踊ワークショップ

2019年1月21日（月）16:00～
会場：京都造形芸術大学内楽屋（定員40名）
参加費無料・要事前申込
「組踊」とは、音楽・せりふ・所作で構成された歌舞劇です。
体験を通してさらなる魅力を発見しましょう。
申し込み：近畿日本ツーリスト沖縄
Tel:098–866–1555（9時30分～17時30分土・日曜、祝日休）

最強メンバーでお届けする「琉球舞踊と組踊」公開レクチャーのご案内

琉球王国時代の古典芸能を楽しむ「琉球舞踊と組踊」。2019年2月23日の春秋座特別公演をより楽しくご覧いただくための、上演にさきがけた公開レクチャーのご案内です。

琉球芸能を楽しめる劇場として春秋座では、2012年から各年で舞踊と組踊の組み合わせ上演を企画してきました。

組踊は、首里城に勤める踊奉行（おどりぶぎょう）であった玉城朝薫（たまぐすくちょうくん）が創始した、中国皇帝の使者をもてなすために創られた歌舞劇です。創始された5つの演目、『女物狂』『銘刈子（めかるしー）』『二童敵討（にどうてきうち）』『執心鐘入（しゅうしんかねいり）』『孝行の巻』は、「朝薫五番」と呼ばれ、名作として今日でも上演されています。

2019年は、玉城朝薫が組踊を創始して300年目にあたることから、4回目となる春秋座公演では「朝薫五番」のうち『孝行の巻』を上演します。

観劇前の公開レクチャーは、組踊と能と歌舞伎を比較するという方法で行います。朝薫が創り出した組踊は、朝薫が能楽や歌舞伎など、日本本土の芸能の様式をとり入れながら生みだしたためです。

『執心鐘入』上演のときは、能『道成寺』、歌舞伎『京鹿子娘道成寺（きょうがのこむすめどうじょうじ）』と、『銘刈子』上演のときは、能『羽衣』、歌舞伎『松廼羽衣（まつのはごろも）』と比較しました。共通点、相違点を取出し、影響関係などから上演演目の背景を学びました。

今回上演の『孝行の巻』は、能『大蛇（おろち）』『池贄（いけにえ）』、歌舞伎『日本振袖始（にほんふりそでははじめ）』と比較します。キーワードは「生贄」。「孝行の巻」が貧しい一家を救うために、大蛇の生贄になる娘と家族の物語だからです。「生贄」とは、人身供養（ひとみごくう）のこと。それぞれの芸能が「生贄」をどのようにあつかうのでしょうか。比較を通して新たな発見を導き出したいと思います。

講師は、嘉数道彦（国立劇場おきなわ　芸術監督　組踊作者　演者）・天野文雄（京都造形芸術大学　舞台芸術研究センター所長・教授　能楽研究）・田口章子（京都造形芸術大学教授　歌舞伎研究）の最強メンバーでお届けします。乞うご期待。

田口章子
（京都造形芸術大学教授　歌舞伎研究）

想い出の「東海道四谷怪談」

4年前のことである、なんと、畏友藤間勘十郎さんが舞踊劇として南北の『四谷怪談』をやるという。彼が歌舞伎作品を次々と舞踊化して舞台にかけていたのは知っていたが、怪談の「お岩さま」に取り組むのは、僕の想像をはるかに超えた発想であった。いかなる舞踊劇になるか、期待に胸が膨らんだ。しかし、残念ながら所用のため、その舞台を見ることが出来なかった。その『四谷怪談』が春秋座で再演されるという。僕の小さな夢が叶った。

それにつけて思い出すのが昭和44年8月の名古屋御園座での『凄艶四谷怪談』だ。お岩とお袖に藤間紫、伊右衛門と与茂七に猿之助（現二代目猿翁）、直助権兵衛に梅之助という配役であった。『四谷怪談』は仕掛けの多い芝居だが、それに加えて浅草田圃の殺しでは本雨、隠亡堀では舞台前面に水槽を創り水を張り、そこに戸板を流し、伊右衛門と与茂七の早替り、三角屋敷では火事場の中の屋台崩しと、スペクタルな演出に大いに興奮した記憶がある。

昭和51年は何故か変わり種の『四谷怪談』の上演の多い年であった。岩波ホールでは武智鉄二演出、白石加代子のお岩、中村扇雀（現坂田藤十郎）の伊右衛門、直助権兵衛の伊藤雄之助という異色のキャスト。武智先生の論では、この時代の江戸は上方の影響が強く残っていて、上方訛りでセリフを言わなければならないということで、上方役者中村扇雀の伊右衛門が実現した。その扇雀の伊右衛門は、こぼれるばかりの男の色気芬々たる舞台であった。東横ホールは、前進座はじめての『東海道四谷怪談』。河原崎国太郎のお岩に梅之助の伊右衛門、国太郎のお岩が、情があって、哀れで、怨念の怖さ、“田圃の太夫”写しの好演であった。さらにもう一つ、僕のプロデュースによる渋谷ジァン・ジァンの『東海道四谷怪談』。嵐徳三郎のお岩に戸浦六宏の伊右衛門、ジァン・ジァンは客席数200人弱の小劇場で舞台の二方が客席になっている変形舞台。観客の目が近いだけ仕掛けの苦労があったが、空間の狭さがドラマの緊密感を高め、面白く仕上がった。

お岩さんを務めた役者に聞くと、どの役者も口を揃えて「こんな気持ちのいい役はない」という。お岩さんという役は単なる変身の魅力だけでなく、女の性が充満している役である。演じ甲斐のある役である事は間違いない。今、脂の乗り切っている舞踊家藤間勘十郎が再再演の舞台でいかにヴァージョンアップした舞台を創るか、どんなお岩さんを見せるか、楽しみである。

水口一夫
劇作・演出家
長年にわたり数多くの作品の作・演出を行う。近年では片岡愛之助主演『GOEMON 石川五右衛門』などの新作も多数手掛ける。

CLIP　舞台芸術研究センター周辺で起こる、ホットな話題をお伝えします。

シンポジウム
「東洋という偉大な書物を開く ―クローデルと日本」

2018年に生誕150年を迎える、20世紀フランスを代表する詩人・劇作家ポール・クローデル。大正時代末に駐日フランス大使として日本に滞在し、関西日仏学館（現アンスティチュ・フランセ関西）を設立するなど、京都とも縁の深いこの詩人大使が日本に向けた眼差しを、日仏の専門家がさまざまな角度から読み解きます。
クローデルの詩・戯曲・エッセイを多数翻訳し、2016・2018年に代表作『繻子の靴』全曲版の演出を手がけた当舞台芸術研究センターの主任研究員・渡邊守章、パリ第4大学のドミニク・ミエ＝ジェラールが登壇。日仏俳優によるクローデルのテキスト朗読も予定しています。

11月8日（木）13:00～18:30
会場：アンスティチュ・フランセ関西―京都 稲畑ホール
入場無料　同時通訳付

主催・お問合せ：アンスティチュ・フランセ関西
京都市左京区吉田泉殿町8　tel.075–761–2105
共催：京都造形芸術大学　舞台芸術研究センター
助成：
EXPO'70 FUND
（公財）関西・大阪21世紀協会

お囃子の魅力

能との出会いは能舞台ではなく、学校であった。中学１年生から高校3年生まで週に一度、能楽の授業があり、卒業の際には『小袖曽我』を舞ったと思う。謡と仕舞が中心であったため、能舞台でお囃子を聴いたときは強い色彩と、感じたことのない興奮を感じた。

十数年が経ち、全四幕（4日間）上演時間8時間の芝居、ポール・クローデル作、渡邊守章翻訳・演出『繻子の靴』の音楽を担当する機会に恵まれた。この作品で故藤田六郎兵衛先生とご一緒できたのは本当に幸せであった。

2日目第13場「二重の影」で、決して結ばれない禁断の恋に落ちた主人公の二人、ロドリッグとプルエーズの影がモロッコの壁で重なりあうシーン。渡邊先生から能管を入れたいと言われ、とても頭を悩ませた。能管の旋律を書き、和声付けをして伴奏をつけようものなら必ず失敗する。私は、空間配置としてのコンポジションを試みることにした。

あらかじめ録音した六郎兵衛先生の笛を逆再生したものを影と見立て、舞台上で六郎兵衛先生は自らの影と共演する。そして地鳴りのような低音など電子音を重ねていく。音同士は「濁る」こともなく、またどちらかが背景となることなく共存していた。

お囃子は空間を作り上げる。能舞台が極度に簡略化されているためだろう。能管のヒシギによって、舞台と客席は一瞬にして違う世界へと変化し、鼓と声によって時間もゆっくり変容していく。観客の私は遠い昔に思いを馳せる。遥か彼方の音も聞こえてくるようだ。中世ではどんな風に響いていたのだろうかなど、いろいろなことを想像する。やがて聴いているのは本当に「いま」の音なのか、という問いを持つ。そして名手が先人たちの芸を厳格に継承しているからこそ、先代たちの音が背景にあり、「遠い昔の音」が聞こえるのではないだろうかという考えに至る。

これほどまでに音響的に没入でき、かつシンプルな編成、残響に依存しない音楽は他にあるだろうか。

原 摩利彦
作曲家
京都大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科修士課程中退。ソロアルバム発表や演奏活動のほか、渡邊守章『繻子の靴』、野田秀樹『贋作 桜の森の満開の下』、高谷史郎、名和晃平などの舞台・映像音楽を担当する。アーティスト・コレクティブ「ダムタイプ」に参加
www.marihikohara.com

CLIP

劇評サイト「+」始動！

この度、舞台芸術研究センター主任研究員でもある森山直人が、長澤慶太、新里直之の3人で運営する、ブログ形式の小さな劇評サイトを立ち上げました。3人が何を、どのように取り上げるかは各自次第。時には、紙幅に制限がある紙媒体ではできないような長い評論も発表できるのは、ウェブの大きな魅力です。とにかく、それぞれが書きたいものを、書きたいように書く。もちろん、自分の書いた言葉にはどこまでも書いた本人が責任を持つ――サイトのデザインの格好良さなど、余計なことには一切気にせず、シンプルに、書くこと、批評することの「原点」だけが見えてくるような場所になればよいと考えています。

https://criticism1819.hatenablog.com

※最初は検索上位にかかりにくいかもしれないので、お手数ですが、その場合は、こちらから直接お入りください。

11月30日(金) 19:30　春秋座 特設客席
12月1日(土) 15:30／19:30
12月2日(日) 15:00
※各回開演 30 分前ロビー開場、10 分前より整理番号入場

ダンス公演『破壊の子ら』

演出：筒井潤（dracom）
出演：倉田翠（akakilike）**、野田まどか、福岡まな実、松尾恵美**

この世界を見つめ、独自の視点で演劇の可能性を広げる筒井潤と、四人の個性的なダンサーがタッグを組んで新作に挑む！
観る者に「しゃあない」と思わせるまでひたすら踊りを晒すと、筒井潤は言います。
春秋座の空間が新しい顔で皆様をお迎えします。是非、一緒に体感ください。

撮影：松見拓也

【整理番号付自由席・発売中】当日は各+500 円
一般 3000 円　友の会 2500 円　学生＆ユース 2000 円
※未就学児の入場はご遠慮ください。

託児サービス **（要事前予約）**
12月1日（土）15:30の回は託児サービスがご利用いただけます。
料金：お子様 1 名 に付き 1500 円　対象：生後 6 ヶ月以上 7 歳未満
申込み期間：～11月22日（木）17時
予約・お問合せ：京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
Tel:075–791–9437（平日10–17時）

T-C　OTS　ぴあ　生協　**JCDNダンスリザーブ**

12月8日(土) 13:00　春秋座

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム
四代目 市川猿之助：監修

藤間勘十郎 春秋座 名流舞踊公演

振付師で舞踊家のほか脚本、演出、作曲、プロデュースと多岐にわたる分野でその才能を発揮している宗家藤間流八世宗家の藤間勘十郎が、春秋座で珠玉の舞踊公演を行います。
『凄艶四谷怪談（せいえんよつやかいだん）』は、三代目市川猿之助と藤間紫が1969 年に演じた通し狂言で、この題材を勘十郎が通し舞踊劇として 49 年ぶりに蘇らせます。自らが鶴屋南北・お岩・小仏小平・小汐田又之丞・四谷左門の五役に初挑戦し、若柳吉蔵、尾上菊之丞ら踊りの名手たちと実力派の舞踊家たちが一堂に会し、“ 恐ろしくも、あでやか ” な新しい「四谷怪談」をご披露します。
夏が定番の怪談ですが、「忠臣蔵外伝」ともいわれ、大詰は師走の討ち入りの日。そして大喜利は、六世藤間勘十郎の初振付作品『柏の若葉』をご覧いただきます。

【演　目】
通し舞踊劇～東海道四谷怪談より～
『**凄艶四谷怪談**（せいえんよつやかいだん）』六幕九場
大喜利『**柏の若葉**』清元連中
【主な出演】**藤間勘十郎、若柳吉蔵、尾上菊之丞、他**

【全席指定・発売中】
一般 9000 円　友の会 8000 円
学生＆ユース席 4500 円（座席範囲指定あり）
※未就学児の入場はご遠慮ください。

託児サービス **（要事前予約）**
料金：お子様 1 名 に付き 1500 円　対象：生後 6 ヶ月以上 7 歳未満
申込み期間：～11月30日（金）17時
予約・お問合せ：京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
Tel:075–791–9207（平日10–17時）

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協　新聞

京都造形芸術大学
共同利用 共同研究
2013 – 2018

文部科学省認定　共同利用・共同研究拠点

舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点

舞台芸術研究センターは平成 25 年度より、文部科学省の定める共同利用・共同研究拠点に認定されました。これは、広範な学術研究発展のため、個々の大学の枠を超え設備や資料などを全国の研究者が共同で利用し、研究を行う体制を整備し、学術研究の基盤を強化することを目的に文部科学省が設けた制度です。
本研究拠点では、舞台芸術一般の学術研究において、舞台芸術作品の創造・受容の多様なプロセスを、アーティストと研究者とが共同でプロジェクトを立ち上げ「京都芸術劇場」を活用しながら実践的に探究しています。こうした研究活動は、本学のアーティストや研究者が中心となって行う《テーマ研究》と、学外のアーティストや研究者に広く公募する《公募研究》の二つのカテゴリーに基づいて実施されています。
今年度は、認定期間の最終年度となります。異なったテーマを持った研究プロジェクトが 2019 年 1 月から 3 月にかけて開催されますので、ご興味のある劇場実験があればどうぞお運びください。

共同利用・共同研究拠点 HP www.k-pac.org/kyoten/

今後の研究プロジェクト

テーマ研究プロジェクトⅠ

身体と言葉の創造的行為を巡って ―インド／京都による国際共同研究

2019年1月13日（日）、**14日**（月・祝）
15:00　会場：studio21

研究代表：**山田せつ子**
（ダンサー／コレオグラファー）

2016 年度『水の駅』（太田省吾作）を春秋座で上演し、多くの共感を得たインド出身の演出家シャンカル・ヴェンカテーシュワラン氏を共同研究者として招き、身体と言葉・劇空間、そして社会と舞台表現の「現在」を、国際的な視点から見直します。公開研究会では、シャンカル氏が昨年発表した『犯罪部族法』を上演し、その後、公開トークを行います。

公開トーク出演者：
シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
モデレーター：山田せつ子
13日　三浦基、森山直人
14日　あごうさとし、内野儀
共催：セゾン文化財団

シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
Photo：Gabriela Neeb

公募研究プロジェクトⅠ

「モーション・クオリア」研究 ～自由落下による必然的な動きと表現～

2019年2月3日（日）
14:00（3～4時間を予定｜途中入退場可）
会場：春秋座

研究代表：**関典子**
（舞踊家／神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻〈表現系〉准教授）

「モーション・クオリア」とは、不安定なバランスを誘発し、それに対し反射的に起こる動きをダンスにしていくメソッドです。考案者はスウェーデン在住の振付家、工藤聡。「劇場実験」では、作品の上演、各分野の研究者によるパネルトーク、体験ワークショップ、そして、研究代表者、関典子による成果発表を通して、実践的／理論的な解明を試みます。

撮影：松本豪

公募研究プロジェクトⅡ

秋元松代研究 ～台詞の音楽性と新たな「語り」

2019年3月9日（土）
17:00
会場：studio21

研究代表：**三浦基**
（劇団「地点」代表／演出家／京都造形芸術大学映画学科客員教授）

秋元松代（1911-2001 年）は昭和期の数少ない女性劇作家です。代表作『常陸坊海尊』や『かさぶた式部考』などで一種独特な造語とも言うべき方言が使われていることは当初から指摘されてきたものの、あえて人工的に構築された方言を使う必要性に着目した研究および演出はこれまでありませんでした。
本研究では、実際に秋元の戯曲を発声することで、台詞の音の側面に注目し、演劇における言葉と意味の関係を再考する手掛かりとして研究を行います。

『マヤコフスキー研究』劇場実験
Photo：Takuya Matsumi

11 3日(土・祝)、4日(日) 14:00　春秋座

春秋座オペラ第9弾　G.プッチーニ作曲

歌劇『蝶々夫人』全2幕

イタリア語上演・日本語字幕付

蝶々夫人役は春秋座オペラ7回目の登場となる川越塔子と2016年の「カルメン」で鮮烈な印象を残した藤井泰子のWキャスト。ピンカートン役はイタリアから実力派テノール、マッシミリアーノ・ピサピアを招聘。オーディションで高評価を得た新人・井藤航太とWキャストをつとめます。プッチーニの名曲の数々を若手・ベテランを交えた充実のキャストでお楽しみください。

【全席指定・発売中】
S席　一般10000円　友の会　9000円
A席　一般8500円　友の会　7500円
学生＆ユース席3000円（座席範囲指定）
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協

11 10日(土) 14:30　春秋座

一路真輝＆京フィル シャイニング コンサート in 春秋座

特集▶P.T2

【全席指定・発売中】
一般6500円　友の会5500円
学生＆ユース席3000円（座席範囲指定）
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協　新聞　京フィルチケットセンター

1 27日(日) 14:00　春秋座

春秋座―能と狂言

演目：**能「自然居士」、狂言「二人袴 三段之舞」**
出演：**観世銕之丞、野村万作、野村萬斎、石田幸雄、片山九郎右衛門、大倉源次郎、亀井広忠、他**
プレトーク出演：**渡邊守章、天野文雄、片山九郎右衛門**

【友の会先行発売10月30日(火)　一般発売10月31日(水)】
S席　一般7000円　友の会　6500円
A席　一般6000円　友の会　5500円
学生＆ユース席2500円（座席範囲指定）
※未就学児の入場はご遠慮ください。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協

2 11日(月・祝) 14:00　春秋座

高校演劇コンクール近畿大会優秀校　第18回「春秋座」招待公演

演じる高校生

出演：**高校演劇コンクール近畿大会優秀校2校**

【全席指定・友の会先行発売12月11日(火)　一般発売12月12日(水)】
一般1500円　友の会1200円
学生＆ユース500円

T-C　OTS　ぴあ　生協

2 23日(土) 14:00　春秋座

組踊上演300周年記念事業

特集▶P.T2

琉球舞踊と組踊　春秋座特別公演

組踊『孝行の巻』他

【全席指定・友の会先行発売11月20日(火)　一般発売21日(水)】
一般4000円　友の会3600円　学生＆ユース2000円

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075−791−8240

営業：平日10:00−17:00・公演開催日

京都造形芸術大学　舞台芸術研究センター
京都芸術劇場 春秋座・studio21

606−8271 京都市左京区北白川瓜生山2−116
tel.075−791−9207　fax.075−791−9438
E-mail. k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp
http://www.k-pac.org　京都芸術劇場　検索

京都芸術劇場友の会　会員募集中！
詳しくは http://k-pac.org/?page_id=33

T-C 京都芸術劇場チケットセンター　OTS 劇場オンラインチケットストア
e+ イープラス― http://eplus.jp
ぴあ チケットぴあ― http://t.pia.jp tel.0570−02−9999
生協 京都、滋賀各大学生協プレイガイド
新聞 京都新聞文化センター（京都新聞社1F）
tel.075−256−0007（窓口のみ10−17時 ※土・日・祝除く）
KBS KBS京都事業部
tel.075−431−8300（電話のみ10−17時 ※土・日・祝除く）

＊記載のないものについての開場は開演30分前
＊特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金
＊ユースは25歳以下対象（一部公演を除く）
＊学生・ユースは要身分証明書提示

カーテンコール

秋冬の春秋座は恒例となったオペラ、能と狂言にお馴染み組踊の上演があります。観劇と併せて東山の紅葉狩りや今が旬の京野菜など美味しいものを食べにお出かけください。〔S〕

2019年度 公開連続講座 日本芸能史

「日本芸能史」～女性と芸能

日本は、女神信仰に起源を持つ女性の霊性が守ってきた国である。日本の古代のヒメ・ヒコ制は、邪馬台国の卑弥呼と弟の例がよく知られているが、邪馬台国に限られず、古代日本の各地で行なわれ、その伝統を受け、現在もヒメとヒコの名を持つ一対の神社が百社近くある。根底には神との交流能力の強い女性の霊性が兄弟を助けるという信仰があり、沖縄のおなり神信仰も典型例である。仏教や儒教の女性差別思想、欧米流男女平等観などの浸透で、姿を消したはずの女性祭祀が、伊勢神宮斎宮、宮中祭祀として継承され、伝統的家庭で女性の管理する神々が存在することも、女性の霊性ぬきに説明することはできない。

日本の芸能は女神を祀る祭祀から誕生した。本講座では、作品の主題、役者の演技、演出、劇場構造などの、細部にまで浸透している女性の霊性への信仰について考える。

企画・コーディネーター
京都造形芸術大学 教授
田口章子

【日　程】
毎　回：月曜日　16:30～17:50
前　期：4月15日～7月15日（全14回）
後　期：9月23日～12月23日（全14回）
受講料各期：1万5千円
会　場：京都芸術劇場 春秋座（京都造形芸術大学内）

【受講資格】
学習意欲のある方なら、どなたでも受講いただけます。

【お問合せ・資料請求先】
京都造形芸術大学　京都藝術学舎
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2–116 人間館中2階
tel.075–791–9124　fax.075–791–9021
受付：月～土曜日／10時～16時
休日：日曜日・祝日・入学試験実施日・年末・年始

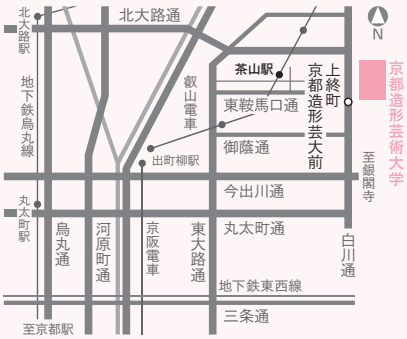
前　期

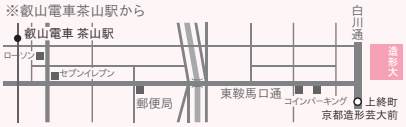
総論　祭りと女性	諏訪春雄
日本舞踊	藤間勘十郎
華　道	池坊専好
能	天野文雄
糸操り人形	結城座
狂　言	野村万作〔聞き手：天野文雄〕
説経浄瑠璃	若松若太夫
絵解き	小野俊成
曲舞（うたまい）	市比賣神社〔解説：木戸敏郎〕
上方舞	山村友五郎
歌舞伎	田口章子
相　撲	内館牧子
女性と芸能―小屋から劇場へ―	諏訪春雄
壬生大念佛狂言	壬生大念佛講

後　期

総論　女性と演技	諏訪春雄
長　唄	今藤政太郎
常磐津	常磐津都𡚁蔵・常磐津都史
神　楽	小林泰三
講　談	神田松之丞
能	片山九郎右衛門
綾切の舞	大阪楽所〔解説：木戸敏郎〕
王権と女性	諏訪春雄
日本舞踊	坂東温子
狂　言	茂山忠三郎
京　舞	井上八千代
女義太夫	鶴澤津賀寿・竹本京之助〔聞き手：田口章子〕
からくり	山田和人
乙女文楽	ひとみ座

アクセス
◉ JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
京都市バス5系統「岩倉」行きに乗車、「上終町京都造形芸大前」下車
（「京都」駅から約50分、「三条」・「河原町」駅から約30分）
◉京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅（北大路バスターミナル）から
京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗車、
「上終町京都造形芸大前」下車（約15分）
◉京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約10分
◉タクシーご利用の場合、「京都」駅から約30分。地下鉄「今出川」駅から約15分
（「京都」～「今出川」は地下鉄で約10分）
※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。
※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。





発行日―2018年11月1日
発行／編集―京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
デザイン…吉羽 一之（Simple Hope Design Room）　T2–4P 撮影：高橋保世
京都芸術劇場ニュースレター vol.42

京都芸術劇場 ニュースレター

shunjuza
studio21
Newsletter

特集

組踊上演300周年記念事業
琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演 2P〜5P

一路真輝&京フィル
シャイニング コンサートin春秋座 T•2P〜T•5P

vol.42
2018.1–2019.3

一路真輝&京フィル シャイニング コンサート in 春秋座

宝塚歌劇団雪組トップスターとして1996年ウィーン発の日本初演となるミュージカル『エリザベート』で主役トートを演じ宝塚を退団した一路真輝さん。2000年から始まった東宝版では2006年まで主役エリザベートを務め、『エリザベート』の第一人者と評されています。その他にも数々の作品で主演をこなし、その抜群の歌唱力と演技力で今やミュージカル界には欠かせない存在です。今回は京都フィルハーモニー室内合奏団の流麗な演奏をバックに、ミュージカルや懐かしの宝塚ナンバーをふんだんに披露します。コンサートに先駆け、春秋座プロデューサーであり、一路真輝さんとも交流の深い舘野佳嗣が今回のコンサートのこと、宝塚時代のことについてお話を伺いました。

2018年11月10日(土) 14:30

会　場：春秋座
出　演：一路真輝
指　揮：牧村邦彦
演　奏：京都フィルハーモニー室内合奏団

◉公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.10〉をご覧ください。

――6年越しのラブコールがかなって、やっと春秋座にご出演いただくことになり、たいへん嬉しく思っております
京都でのコンサートは初めてですか？

一路　ありがとうございます。初めてなんですよ。

――一路さんといえば『エリザベート』初代トートを務められ、さらに東宝版でも今度は主役エリザベートを初演から演じられました。日本における『エリザベート』の第一人者でもありますから、今回も当然『エリザベート』の曲は歌われますよね。

一路　はい。予定しています。私、『エリザベート』の舞台であるウィーンとは何かと縁が深いんです。まず、宝塚のトップスターになる前に『微笑みの国』というウィーンのオペレッタをやりまして、トップ就任後、ウィーンの国立フォルクスオーパー管弦楽団とウィーンで共演したんです。ゆくゆく、その流れで『エリザベート』上演に繋がるのですが、退団してからも年に1、2回はウィーンにお仕事で行っていたんです。ですからウィーンとの縁をものすごく感じるんですよ。

――それで1部はウィーン繋がりの曲が並ぶんですね。

一路　はい。私、クラシックコンサートというと国立フォルクスオーパー管弦楽団と共演した時の「ウィーンで、ウィーンのオーケストラで、ヨハン・シュトラウスを生演奏で聴いている！」という幸福感を思い出すんです。
ですから今回、私から京都フィルハーモニー室内合奏団（以下、京フィル）さんにヨハン・シュトラウスを2曲、リクエストしました。そうなると自然と「ウィーン、わが夢のまち」を歌いたいなと思い、そしてウィーンといえば『エリザベート』なので「愛と死の輪舞」へ続くと。そんな風にウィーンと縁の深いオープニングになる予定です。

――そこからは宝塚ナンバーになるわけですね。

一路　はい。「愛と死の輪舞」ときたら、やはり宝塚ワールドかなと思って。そして自分の中で、宝塚時代の代表曲と思える「花夢幻」、最後はケネディ大統領を描いた『ＪＦＫ』の中から「アポロ・月への旅」。これは未来に向かって何かが始まるという曲なので、あえて1部の最後に歌うのもステキだと思いまして。皆様に喜んでいただけるかなぁ、なんて考えながら決めました。

今の私が、どう表現するか楽しみ

――2部のスタートは京フィルさんがミュージカル曲を演奏されます。その3曲目に『王様と私』からの代表曲を予定されており、その流れでもう一曲、お馴染みのナンバーを選ばれたのですよね。

一路　今回やりたいなと思ったのは、京フィルさんの演奏から私の歌へ自然に繋がる感じにしたいと思ったんです。ですから京フィルさんの演奏リストに「Shall We Dance?」が上がっていたので、続いて「ハロー・ヤング・ラバーズ」を歌いたいなと思ったんです。

――素敵な流れになりましたよね。

一路　『王様と私』の後は、ウィーンミュージカル『モーツァルト！』から「星から降る金」を。このミュージカルは博多と名古屋でしか出演しなかったので、関西のお客さんに聴いていただけたらと思って。それからこの2年間、14年ぶりに出演した『キス・ミー・ケイト』より「ソー・イン・ラブ」。14年経った今の私だからできる、今の私の歌い方みたいなのが何となく見えてきたので、改めて京フィルさんと作りたいなと思っています。
そして『レ・ミゼラブル』の「夢やぶれて」。私、この曲が大好きで自分のコンサートでも歌うのですが、今の自分がこの歌をどう表現するのか自分自身に興味があるんです。
歌って本当に不思議で、歳と共にすごく歌い方が変わるんですね。自分の曲への感じ方も変わるし、お客様の聴き方も変わりますし。ですから自分でも「今はこんな風に歌うんだ」って発見があって奥深いんです。当日は、自分がどんな風に歌うのか楽しみでもありますね（笑）。

――その次は『サンセット大通り』から「With One Look」ですね。

一路　これは歳をとった女優さんが銀幕から退き、今は世間からは必要とされていないけれど、幻覚で自分は素晴らしいと歌う曲なんですね。とてもドラマチックで大好きなミュージカルです。
おそらく、この女優さんは自分と同じぐらいの年齢だと思うのですが、今の世代って、ひと昔前より10歳ぐらい若いですよね。なので気持ちは、あと10年後の感覚を想像してみながら歌ってみようと思います。

『エリザベート』は財産

――　最後は再び『エリザベート』ですね。

一路　一路真輝にとって大きな大きな財産である『エリザベート』から「夜のボート」「愛のテーマ」を最後に歌わせていただこうと思います。この2つはデュエット曲なんですよね。

――　ここは京フィルさんに趣向を凝らしていただいて、相手役をある楽器で表現しようと考えています。

一路　お客様が思い浮かべるキャストの方の声にその楽器が乗ってくれたらいいなと。これは新しい試みですよね。

――　この『エリザベート』は一路さんの宝塚退団公演の作品で、しかも「さよなら公演なのに死神の役だなんて！」と随分、物議をかもしましたね。それだけでなく、作品の内容的にもご苦労されたんじゃないですか？

一路　そうですね。『エリザベート』という作品が、こんな風になるとは当時、予想もつかなかったですね。でも、あの苦労があったから今があるって、はっきり胸を張って言える作品に出会えたことは幸せです

し、財産だと思います。でも誰かタイムマシーンに乗って行って、当時の自分に「これをがんばれば大丈夫だよ」と、言ってくれたらよかったのに！って思うほど、本当に不安でした。

――　「男役の限界を越えた」などと評されましたね。

一路　そうでした!?　当時は自分の事で精一杯で、お客様のお声をあんまり覚えてなくて。うーん、でも14年間の男役人生をぶつけられる役でした。ただ、キーは宝塚の男役のためにかかれている歌に比べたら、下から上まで音域が広かったですから苦しみましたね。

――　当時、『エリザベート』をやろうと言い出したのは、どなただったんですか？

一路　宝塚の古澤真プロデューサーの熱意に小池修一郎先生が負け、私が説得されたような感じですね。
古澤さんは当時、宝塚歌劇団の中で唯一、物語の筋などを理解した上で『エリザベート』を観られた人だったんです。それで絶対、宝塚に合っていると確信を持たれ、演出家は人間以外の演出をさせたらピカ一（笑）と言われた小池修一郎先生が良いと言われ、私が説得されたと。
それで私と娘役トップスターの花總まりさんと小池先生でウィーンへ観に行って、宝塚らしいアレンジが加えられるのならば、とても良い作品だね。という話になり今日に至るんです。

――　大変、面白い作品ですからね。

一路　当時の小池先生の名言で「テレビドラマの『渡る世間は鬼ばかり』がロングヒットしているのは、テーマが嫁姑問題だからだ」って。だから「絶対にエリザベートもウケるはずだ」とおっしゃられたのが忘れられなくて（笑）。ほんとうに着眼点が面白いですよね。

――　やはり日本人に合っているんですね。あの旋律も日本人の琴線に触れますよね。

一路　ウィーンやフランスミュージカルが日本のお客様に受け入れられるのは、何かしら日本人の心を打つものがあるからなのでしょうね。それはヨーロッパの歴史なのか、ヨーロッパに王様がいらっしゃるのと同じように日本に天皇がおられるからなのか。でも日本人はハプスブルク家が好きですよね。ですから、いろいろな意味で『エリザベート』には日本人が喜ぶ要素が詰まっていたのかなと。

――　宝塚を卒業されてからは東宝版の『エリザベート』に今度はエリザベート役で出演されますね。キーの違いなど大変だったんじゃないですか？

一路　大変でしたし、今でも課題は沢山あります。シシイ（エリザベートの愛称）をやったのは女優としてまだ4年目で、たくさん勉強しなくてはいけない時期でしたので非常に大きな壁でしたね。

今でも今回のようなコンサートで歌わせていただいたり、自分のコンサートで歌ったりする中で毎回、「あ、やっぱりこの楽曲、大変だ」と思ったり、「今の自分はこういう風に歌えるんだ」と思ったり。そういう発見があります。

――トートもシシイもシングルキャストで演じられたのは一路さんお一人だけなんですよね。その後のみなさんはWキャストになりましたけど。ですから、終演後はヘトヘトになられていましたね。

一路　ウィーンの初演でエリザベートを演じられたピア・ダウウェスさんは精神的に耐えられないといって、一回、降りられたことがあるんですよ。その後、マヤ・ハクフォートさんに変わったんですが、マヤさんが「私は私！」という感じで、でーんと演じられたので、そこからピアさんも、そういうエリザベートでもいいんだって思われて復帰されたんだそうです。ですから初代はストイックにやらなくてはいけない、そんな風に陥るみたいです。

でも、今となってはあの経験が財産ですね。いくら今、シングルでやりたいといってもさせていただける時代ではないですから。すごい経験をさせていただけたなって。

実は今日、宝塚取材歴約40年の記者の方に、私が辞めた後、宝塚で何が変わったのかを教えていただいたのですが、当時の植田紳爾理事長が「『エリザベート』ができたのだから、宝塚はもっともっと自信を持って作品に挑もう。だから、もっと色んな作品を上演したいから5組に増やそう」と、おっしゃったと。ですから『エリザベート』が5組を作るきっかけにもなったんだというのを今日、初めて伺って感動しました。今日を境に、「こんなこともありました」って言えるようになったのが嬉しいですね。辞めた後って分からないじゃないですか。

3人のトップスターから始まったエリザベート

――『エリザベート』初演の年に星組の麻路さきさんで再演されていますよね。

一路　そうなんです。私たちの後、再演までに間が空いてしまうと次はどの組にやらせようかとなりますが、一年経たずに上演することでトートという役の幅が広がったと思っています。

つまり麻路さんが妖艶なトートをされた後、2年後に姿月あさとさんが麻路さんとは違ったトートをおやりになられた。そのことでトートはこうでなくてはいけない、という役の制約が無くなったんですね。

ですから『エリザベート』という作品が愛され、再演が続いているのは、初演から2年にわたって受け継いだ、私から麻路さん、姿月さんの3人から始まった作品だと語り継いでいただけたらと願っております！

――最後に京都について一言お願いします。

一路　実は京都には宝塚時代からよく通っていたんです。祇園町や銀閣寺とかいろいろ行って、湯豆腐とかおいしいものを食べたり…。今まで京都で楽しい思いをさせていただいたので、このコンサートで歌わせていただくことでお返しできたらいいなと思います。

――銀閣寺へは春秋座からも近くなので、コンサートのついでにまた、お立ち寄りください。

一路　そうなんですか！　ぜひ、行ってみます。

一路真輝＆京フィル　シャイニング コンサート in 春秋座

1部

京フィル

皇帝円舞曲／J.シュトラウス2世、カルメンカドリーユ／E.シュトラウス

一路真輝・京フィル

ウィーンわが夢のまち、君はわが心のすべて『微笑みの国』より、
愛と死の輪舞『エリザベート』より、花夢幻『舞踊詩 花夢幻』より、
アポロ・月への旅『JFK』より

2部

京フィル

『オペラ座の怪人』のテーマ、『美女と野獣』のテーマ、Shall We Dance?『王様と私』より

一路真輝・京フィル

ハロー・ヤング・ラバーズ『王様と私』より、星から降る金『モーツァルト！』より、
ソー・イン・ラブ『キス・ミー、ケイト』より、夢やぶれて『レ・ミゼラブル』より、
With One Look『サンセット大通り』より、夜のボート～愛のテーマ『エリザベート』より

一路 真輝　いちろまき

愛知県出身。宝塚歌劇団雪組トップスターとして活躍し、1996年、『エリザベート』トート役で退団。同年、東宝ミュージカル『王様と私』のアンナ役で女優デビュー。2000～06年に東宝版『エリザベート』で主演した他、『キス・ミー、ケイト』『イーストウイックの魔女たち』『アンナ・カレーニナ』『ルドルフ』などに出演。1996年に第22回菊池一夫演劇賞、2004年に第12回読売演劇大賞優秀女優賞、2016年に第37回松尾芸能賞優秀賞を受賞。